



新潟三条
ささき内科・消化器内科クリニック
Niigata Sanjyo SASAKI GI clinic

2026 AUGUST

EGD CLINICAL QUALITY REPORT

66件の検査を振り返り、 次の診療に生かす。

2026年8月 上部内視鏡（胃カメラ）診療品質レポート
所見と病理、その後の診療経過を確かめます。

66

胃カメラ検査

34

病理結果あり

1

病理確定胃腺癌

66/66

データ検証完了

新潟三条ささき内科・消化器内科クリニック

AUGUST SUMMARY / DATASET

66件の記録に、病理結果をつなぐ。

対象期間：2026年8月1日 - 8月31日 / 診療情報の確認時点：2026年9月16日

66

検査件数

実患者66人・重複なし

34

病理結果あり

全66件中 51.5%

32

病理の対象外

全66件中 48.5%

0

病理未確定

生検34件の結果を確認

PATIENT PROFILE & EXAMINATION ROUTE

項目	結果	補足
経口 / 経鼻	51件 / 15件	77.3% / 22.7%・経路不明0件
平均年齢 / 中央値	58.2歳 / 58.5歳	報告書に記載された年齢
女性 / 男性	34人 / 32人	51.5% / 48.5%
Validation Completed	66 / 66件 (100%)	元データ取り込み時の検証完了

記録を確かめ、集計に反映する

院長が内容を確認し、記録の整理・集計にはAIを活用しています。曖昧な点や食い違いはカルテに戻って確認し、所見とその後の診療経過を反映しました。

複数ページに繰り返される同じ検査や、過去の癌治療を今回の検査・新規診断として重複計上していません。
Validation Completedは取り込み時の検証状態であり、その後の臨床的な照合と修正は6ページに示します。

GASTRIC BACKGROUND

約6割がピロリ菌除菌後。

HP：ヘリコバクター・ピロリ。内視鏡所見と病理所見は別に集計しています。

41

HP除菌後

全66件中 62.1%・確認後

53

木村・竹本分類

全66件中 80.3%・記載あり

萎縮の分類	件数	全66件中
C型：C-1 / C-2 / C-3	28件：7 / 12 / 9	42.4%
O型：O-1 / O-2 / O-3	25件：16 / 4 / 5	37.9%
残胃の萎縮・C/O分類なし	1件	1.5%
萎縮なし（確認補足を含む）	12件	18.2%

C/O分類記載53件中ではC型52.8%、O型47.2%。残胃を含む萎縮ありは54件（81.8%）です。分類の未記載を、そのまま萎縮なしとは扱いません。

腸上皮化生の内視鏡記載	件数	全66件中
あり（ごく軽度を含む）	45件	68.2%
なし	16件	24.2%
ほぼなし / ほとんどなし	5件	7.6%

HP感染状態の扱い

除菌後の記載42件のうち1件は、カルテ確認で自然消滅パターンと判明し41件へ補正。原報告にHP胃炎の診断記載がある検査は6件です。感染状態の評価中も含むため、診断記載の頻度を感染率や除菌成功率とは扱いません。

PATHOLOGY & FINDINGS

生検した34件を、病理の答えまで。

胃のGroup分類と食道・接合部の結果を、検査単位で示します。

今回の病理結果	件数	病理あり34件中
胃・残胃 Group 1	30件	88.2%
胃 Group 2	1件	2.9%
胃 Group 5	1件	2.9%
食道胃接合部：びらん	1件	2.9%
食道：食道炎	1件	2.9%

胃・残胃のGroup分類は32件。Group 5は1 / 32件 (3.1%)、全EGDでは1 / 66件 (1.5%) です。複数検体を採取していても1検査として数え、検体数とは区別します。

ENDOSCOPIC FINDINGS 重複あり

主な内視鏡所見	件数	全66件中
LA分類記載あり：M / A	19件：12 / 7	28.8%
滑脱型食道裂孔ヘルニア	9件	13.6%
バレット食道 (SSBE)	3件	4.5%
胃底腺ポリープ	10件	15.2%
胃粘膜下腫瘍	3件	4.5%
食道カンジダ	3件	4.5%

内視鏡所見のすべてが組織学的な確定診断を意味するわけではありません。LA-MとLA-Aは区別して保持し、LA-B/C/Dの記載はありません。1検査に複数所見があるため、各行の合計は検査総数と一致しません。

DIAGNOSIS, NEXT STEPS & SURVEILLANCE

診断の先へ。治療後の観察も続ける。

病理確定、紹介予定、治療後の所見を区別し、確認時点の経過を示します。

1 病理確定胃腺癌 / 全66件中1.5%

8月の検査で内視鏡的に早期胃癌と診断し、生検で胃Group 5・腺癌を確認。9月16日の確認時点では専門医療機関へ紹介予定です。治療・切除後病理は今回の報告範囲に含みません。

病理報告は9月ですが、「8月に行った検査」として集計しています。

胃Group 2：1件。経過を踏まえて再評価。

再診と治療介入を確認。除菌後の状況を見て再検査時期を判断する方針です。原報告の再検査間隔を固定の予定とはしていません。

がん治療後の検査	件数	今回確認できた範囲
胃癌・内視鏡治療後	2件	いずれも局所再発なしと明記
胃癌・胃切除後	1件	吻合部の再発・狭窄なし / ポリープ良性
食道癌・内視鏡治療後	2件	いずれも局所再発なしと明記

胃癌治療後の3件は、今回の病理確定胃腺癌1件とは別の検査です。胃切除後の吻合部所見は追加確認し、Group 1の病理結果とともにレジストリへ補いました。

好酸球性食道炎の鑑別生検は、原病理で組織基準を満たさず確定例に含めていません。HPも病理の疑い所見だけで感染陽性とせず、抗原検査等の確認結果と区別します。

病理確定件数は検査感度や見逃しのなさを表しません。治療後の所見は今回確認した範囲であり、長期経過を結論付けるものではありません。

PHYSICIAN REVIEW & FOLLOW-UP

記録を、カルテで確かめる。

原文とカルテを照合し、確認された所見・経過を集計へ反映しています。

確認項目	確認前	確認後
検査経路	3件が「経鼻口」	3件とも経口。経口51件・経鼻15件に確定
HP除菌後	42件	1件は自然消滅パターン。除菌後41件へ修正
胃粘膜の萎縮	2件が未記載	2件とも萎縮なし。萎縮なし12件に確定
腸上皮化生	1件が未記載	なしを確認。腸上皮化生なし16件に確定
止血を要した出血	定型欄に未反映	原文と診療経過を確認。偶発症1件を計上

未記載と「所見なし」を分ける。

萎縮2件と腸上皮化生1件は、報告書だけで有無を決めずカルテで確認しました。この確認を経て、胃粘膜の背景を66件すべてについて整理しています。

検査結果の後も、経過を残す。

HPの検査中、専門医療機関への紹介予定、再検査時期など、確認時点で診療がどこまで進んだかを記録しています。観察しづかった検査は実際の状況を確認し、次回は経鼻・鎮静なしで観察する方針を反映しました。

修正した数字とその理由を残し、根拠をたどれるようにしています。この積み重ねを、次の検査や経過観察にも生かしていきます。

SAFETY & CONTINUOUS QUALITY IMPROVEMENT

出血も、対応まで含めて振り返る。

未記載と陰性、確認された事象と包括的な発生率を区別します。

1

止血処置を要した偶発症

全EGD 66件中 1.5%

15/15

経鼻挿入時の鼻出血なし

経鼻15件の原文で確認

経鼻挿入時の疼痛	件数	内訳・分母
疼痛なし	13件	経鼻15件中
疼痛記載あり	2件	疼痛あり1件 / 許容範囲内1件

マロリーワイス出血への対応

検査中の出血にクリップで止血。確認された経過では入院なし・追加処置なしで、偶発症1件として計上しています。上記の疼痛記載は別項目であり、単純加算していません。

定型欄の「記載なし」は、発生0件ではありません

元データの出血欄は66件すべて「記載なし」でしたが、原文から止血処置を確認しました。疼痛・鼻出血の否定表現にも抽出漏れがあり、原文と臨床確認で補正しています。咽頭損傷・検査中止・その他有害事象の定型欄も全件「記載なし」です。

検査後の経過を全例同一の方法・期間で追跡していないため、1.5%を包括的な偶発症発生率とは扱いません。単月の数字だけで他施設との優劣、安全保証、改善・悪化を判断しません。鎮静薬に関する解析は対象外です。

公開版には患者ID、個別の検査日・病変の位置や大きさを掲載していません。

出典：8月EGDデータセット Ver1.1 / 院長の追加確認を反映した既存公開版（2026年9月16日）。割合は小数第1位に丸めています。

お問い合わせ：0256-46-8488（個別の患者情報にはお答えできません）